

について考える3つの物語

監修… 日高庸晴（宝塚大学看護学部 教授）

身近な出来事から見えてくる、ジェンダーのリアル。
考える力が、世界をやさしくする。

社会的な意味合いにおける性を表すジェンダーについての関心は依然として高く、性別規範や男女格差、LGBTQ+、性暴力やハラスメント、恋愛や結婚など、社会の様々な場面でジェンダーに関わりのある話題は事欠きません。

本シリーズは、主に中学生、高校生に向けて、ジェンダーについて考えるきっかけを提供する物語形式の映像教材です。ジェンダーに関わる様々なトピックを生徒たちの身近に起こりうる問題として考えられるように提示し、ジェンダーに関する考え方の素地を養うことを狙いとしています。



- ① ジェンダーステレオタイプ ~無意識の性別規範~
- ② 性暴力 ~加害者、被害者、傍観者にならないために~
- ③ 同性カップル ~社会的格差を埋めるために~

DVD
全3巻

バリアフリー
字幕版選択可

価格

《通常版》

各巻 45,000円+税
全3巻 135,000円+税

《小・中・高校特別価格版》

各巻 22,000円+税
全3巻 66,000円+税

対象

中学校・高等学校・大学
各種教育機関

ジェンダー感覚のリアルに気付き、考えるために

男らしさ、女らしさや性別に基づく役割分業意識などが社会に根強くありますが、これは社会的に形成されてきたものです。この価値観や考えは時代、国、地域などさまざまにあると共に、様々な規範につながり、社会の奥深くまで浸透していると言ってもいいでしょう。その一方で時代の変化と共にゆるやかなスピードですが、少しずつ変化してきている側面もあります。知らず知らずの間に内面化した価値観、時に差別につながりかねない“ジェンダー感覚のリアル”に気付くために必要なことがあります。それは「しっかりと指摘」されることであるように思われます。その経験がない限り、なかなか目が覚めることはないかもしれません。このシリーズでは、ジェンダーステレオタイプ・性暴力・同性カップルをテーマに、現在の社

会で起こっていること、ありがちなことを現実感を持って描き出したうえで、これからどうやっていくか、生徒がリアリティを持って考えることが出来る教材となっています。

日高庸晴（宝塚大学看護学部 教授）

宝塚大学看護学部教授、日本思春期学会理事



京都大学大学院医学研究科から博士号授与。カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部エイズ予防研究センター研究員などを経て現職。文部科学省が2016年4月に発表した性的指向と性自認に関する教職員向け資料の作成協力、文部科学省幹部職員研修・法務省の国家公務員人権研修・人事院のハラスメント研修など、国や自治体の人権啓発事業の講師として各地で普及啓発に努めている。専門は健康社会学、社会疫学、社会調査など。

① ジェンダーステレオタイプ ~無意識の性別規範~

性別に基づいてこうあるべきと決めてける固定観念や思い込みであるジェンダーステレオタイプは社会の中に数多く存在し、男女格差の一因にもなっていると考えられています。

本巻は、無意識のうちに思い込んでしまっている、あるいは社会の中に見えない形で存在するジェンダーステレオタイプに気付き、それらがどのように作られているかを考える物語です。生徒たちが自分事としてジェンダーについて考える第一歩となるきっかけを提供します。 (約18分)



② 性暴力 ~加害者、被害者、傍観者にならないために~

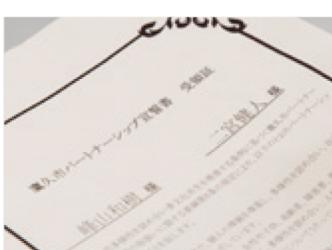
強姦や痴漢、デートDV、盗撮、セクシュアルハラスメントなど性暴力には様々ななかたちが存在します。こうした性暴力を根絶するためには、学齢期の生徒たちが正しい知識や人権感覚を持ち、性暴力を認めないとという意識を持つことが欠かせません。

本巻では、身近に潜む性暴力について考え、子どもたちが被害者、加害者にならないようにするだけでなく、傍観者にならないことの重要さをドラマで伝え、性暴力をなくしていくために必要なことを考えます。 (約14分)



③ 同性カップル ~社会的格差を埋めるために~

同性カップルのパートナーシップ制度が多くの自治体に導入され、同性婚に関しても社会的関心は高まっています。しかしパートナーシップ制度は男女の法的な婚姻関係と同等の権利を保障するものではありません。同性カップルが日常生活や医療現場で直面する社会的障壁や理不尽な格差、そこで発生する不利益について描き、現在の日本社会に潜む不平等や社会的課題を考えます。 (約16分)



●お問い合わせ・お買い上げは

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101